



## 異国で学んだもの

坂井市立坂井中学校 3年 中野 翔介

「よりよい世界のためになにができるか。」少し前までの僕はそんなこと考えてみたりすることもありませんでした。「自分は世界なんて関係ない」、「外国に行くことなんてない」、心のどこかでそう思っていました。たぶん、ほとんどの小学生や中学生もこんな考えをもっていると思います。でも、こんな考えを持っていたのは昔の僕です。今の僕には少しだけよりよい世界のためにできることがあります。僕をこんな風に変化させ始めたのは中学2年のときに坂井市主催の一つの体験でした。

中学2年の夏、僕は学校で「英國派遣団員募集」という張り紙を見つけました。英國派遣とは、イギリスに行ってホームステイをしたり、イギリスの歴史を知るために行う、毎年開かれているものです。僕は、英語は苦手ではなかったし、偶然、身近な友達が応募するといっていたので応募をしました。2つの試験になんとか合格して僕は英國派遣団員になることができました。団員の人数は25名でした。この25名全員が外国という新しい場所に心を踊らせていました。

イギリスに行ったのは3月でした。僕は、ホームステイやイギリスの歴史、建物などを見ることができとても充実した生活を送ることができました。ホームステイ中の一場面でこんなことがありました。ホストの子が、「I want to hear about Japan more!」。もっと日本のことが知りたいという意味です。僕は、日本のいろんなことについて話してあげました。そのときは何も思いませんでしたが、今になるとうとう思います。「僕たちが世界のために出来ることってこういうことじゃないか」と。日本を知るということは僕が住んでいる国について知るということ。僕が住んでいる国を知るということは僕について知ること。つまり、「相手のことをよく知る」。それが世界のために僕が出来ることではないのかと思います。たとえば、今、紛争が起きている国がたくさんあります。その紛争は意見が2つに分かれ、対立し、それが広がっていくものです。両者にそれぞれの考えがあります。そこで「相手のことをよく知る」という考え方を持つと、どうなると思いますか。僕は、戦いが終わるとは言い切れないけれど、少しは状況がよくなると思います。

この、「相手のことをよく知る」という気持ちは、普段の生活にも活かすことができると思います。クラスで学級目標を決めるときに対立をしたら、相手の考えをよく知り、それならどうすればいいか考える。けんかになるよりもいいと思います。「相手のことをよく知る」というのは難しいことだけどこれから生きていく上で大切なことだと思います。